

設立趣意書

「自然の叡智」をメインテーマとした 2005 年日本国際博覧会は、運営においても様々な新たな取り組みに挑戦した。

会場内に約 100 台の AED を設置するとともに、救急専門医や日本で初めてとなるボランティア救急救命士を配置し、多くの尊い命を救うこととなった。その取り組みは、「愛知万博」の奇蹟としてマスコミを通じて全国に広く報道されることとなり、成果を継承して設立された特定非営利活動法人 愛知万博記念 災害・救急医療研究会は「平成 20 年度救急功労者総務大臣表彰（団体）」を受賞した。

また、特定非営利活動法人 愛知万博記念 災害・救急医療研究会は、2005 年日本国際博覧会での経験を名古屋市で 200 万人の観客を集める「にっぽんど真ん中祭り」や愛知県内の全ての市町村が参加する「愛知駅伝」へと引き継ぎ、2012 年からは「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」の医療支援活動を担うところとなった。また、AED の普及啓発や救急医療に関する様々な市民フォーラムを開催するなど、愛知県を中心に活発な活動を継続している。

こうした活動をさらに発展させ、全国及び主に東南アジアの国々に対してその利益を敷衍することは、2005 年日本国際博覧会の成果の継承となり、積極的に推進すべきものとする。

その受け皿として特定非営利活動法人 愛知万博記念 災害・救急医療研究会を発展的に改組し、公益法人として更なる活動の推進を図る。

平成 29 年 8 月

設立発起人 (特非)愛知万博記念 災害・救急医療研究会 理事長
愛知医科大学 名誉教授



設立発起人 (特非)愛知万博記念 災害・救急医療研究会 理事
元(財)2005年日本国際博覧会協会 事務総長

